

応急手当をするのとしないのでは、救命率に大きな差が出ます！

# AEDを 知っていますか？



協力：桑名市消防署員弁南分署

## 聞いたことがあるけどわからない…、知っているけど使い方がわからない…

119番通報で救急車を要請してから救急隊が現場に到着するまでにかかる時間は、平成18年の全国平均で約6.5分でした。心肺の機能が停止した人を救うため、救急隊員が到着する前に倒れた人の周りに居合わせた人がAEDを活用した応急手当を行うことで、救命率は大幅にアップします。

この特集では、AEDの使用を含む応急手当の大切さなどを紹介します。

## AEDとは？

毎年、多くの方が心臓発作による突然死で亡くなっています。その原因の多くは、心臓のけいれんである「心室細動」によるものです。心室細動で倒れた人を救命するためには、心臓のけいれんを止める「除細動」が必要になります。AED（自動体外式除細動器）は一般的にあまり馴染みのない難しい言葉ですが、電気ショック（通電）によって心臓の動きを正常な動き（除細動）に戻すことを試みる医療機器です。コンピューターを内蔵し、電極パッドを胸に貼ると心電図を自動的に解析し、心室細動か否かを判断し機械が電気ショックを指示します。

## 「救命のリレー」

— AEDはこのような方法で使われるのが効果的です —



意識を確認する「大丈夫ですかー！？」

1



意識がなければ119番通報する「救急車をお願いします！」  
 近くのAEDを持ってきてもらう

2



気道を確認し呼吸を確認する「見る、聴く、感じる」が大切…

3



胸部圧迫（心臓マッサージ）をする（30回）「乳頭を結んだ位置の真ん中に手を置きます」息吹き込みをする（2回）「胸部圧迫と息吹き込みは30:2の割合です」